



読字 原田 鏡

No. 834

2017/ 7/15

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

日中友好協会  
岡山支部  
〒710-8256  
岡山県岡山市東区3-8-30 511  
TEL:086(272)-3010  
郵便番号1100  
01250-0-3835

日中友好協会  
倉敷支部  
〒713-8911  
倉敷市連島中央1-8-4 (宮地方)  
TEL/FAX:086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rzhong.biz/>  
メールアドレス  
rzhong86@hotmail.co.jp



## 歴史の真実に向き合い9条改悪を許さない声を — 盧溝橋事件80周年の街頭宣伝 —

日本中国友好協会は、毎年、7月7日(盧溝橋事件)から9月18日(柳条湖事件)までを「不再戦・平和友好期間」と定めています。この期間中に全国各地で、街頭宣伝や記念集会・学習会など不再戦・平和運動に取り組んでい

戦争は、私たちに何を語りかけているか(講師: 額野厚さん(山口大学名誉教授・歴史学)の講演会が開催されました。

2017年7月7日は、1937年7月7日の盧溝橋事件から80年の節目です。東京では、国会前で「日中戦争開始の日・三集会」が行われました。8日には、日中15年

岡山支部は7月7日、午前11時から12時までの約1時間、天満屋アリスの広場前で盧溝橋事件80周年—歴史の真実に向き合い9条改悪を許さない声を—などと書いたビラ200枚を配布しまし

た。

参加者は、竹内理事長、井上監査、小林事務局

長、曾田・河井・今岡の各理事及び平和委員会の中尾さん、岡山市議の竹永さんの計8人です。

最初に曾田理事がマイクをもって、ビラの内容についてくわしく説明しました。続いて中尾、竹永、小林の3人がマイクで訴えまし

核兵器禁止条約の国連会議への不参加(など)には、適切な批判をしている。

第四は、参加者(90代2人、80代1人、70代4人、50代1人)が高齢化する中で、こうした運動や歴史の真実を、どう若い世代に引き継いでいくかが大きな課題である。

ビラの受け取りもよく会話もはずむ

今回の宣伝行動では、安倍自民党が都議選で歴史的敗北を喫した後で、例年以上にビラの受け取りもよかったです。また、通行人が横断幕に目を向けたら、ビラの受け取り後の会話もはずみま

最後に、通りがかりのベビーカーを押す男性と、連れの年配の女性が横断幕に目をとめたのを見かけて、参加者全員の写真撮影をお願いしました。この人たちは中国人でした。小林事務局長は、私も中国のハルビンの近くで生まれたなど、ささやかな日中交流ができました。

第二は、7月7日、日本では七夕の日ですが、中国では「7・7」と呼んで、中国の国民にとつては、日本軍が中国全

土への侵略戦争を開始した、忘れられない日です。」と述べ、そしてこの日は、日本人にとつても、アジアの人々2000万人、日本人310万人の犠牲を出したアジア・太平洋戦争の発端になった日として

忘れてはならない。同時に、再び過ちを繰り返さないと呼ぶ日です。

第三は、わたしたちの協会は、中国人民との草の根の交流を基本にしているので、中国政府の問題ある行動(古くは「文化大革命」、最近では

## 戦争犠牲者にとどけ平和の祈り鶴



7月7日、新西大寺町商店街(表八か町・表町商店街)は、平和七夕まつり(6月20日〜7月20日)の期間中で、竹の笹に願いを書いた短冊が掲げられ、たく

さん(の人の)折り鶴がつるさされていました。

折り鶴は、高校生(創志学園・山陽女子高)、ほか、おみやまコープ、新婦人及び平和と健康を求めて(日中友好協会岡山支部・太極拳)などがありました。また、平和でこそ商売繁盛(表町商店街)の垂れ幕、世界で一つの輝く光になれ(岡山南書道部)などが目を引きました。

このまつりは、平和の波おかやま実行委員会と表町商店街が主催し、6月29日の岡山空襲と戦争でなくなった人々の鎮魂、再び郷土を灰にすまいの思いから始まりました。まさに商店街の活性化と平和の願いが一体と化した取り組みです。



# 倉敷支部第13回定期総会と記念講演会開かる

## 「今の中国をどう見るか」大西広教授が熱弁をふるう

一、6月24日(土)10時、くらしき健康福祉プラザにて20余名の参加で第13回定期総会が開かれ、栗本理事長、劉華人協会長の来賓あいさつの後、議事に入り、一年間の活動報告とこれからの方針、決算・監査報告、予算案が承認され、新役員を選出が行われました。日中交流活動、文化講演会、映画会、中国旅行、中国百科検定、中国語講座、太極拳、二胡教室などの広がりが見られました。

二、第18回中国問題文化講演会は会場がいっぱいになる80名の参加で、慶應義塾大学大西広教授(日中友好協会副会長)の1時間30分の熱のこもった講演と20分間の質疑が交わされました。

経済学、統計学の専門家で国際学会の重職も担当しながら、日中友好活動でも活躍している現役教授の含蓄のある講演は、固い内容ながら眠気を飛ばす迫力あるものでした。その概要は、「今の中国をどう見るか」「中国脅威」論を前にして」と題する、『平和運動』(日本平和委員会発行)の10ページの論文を基礎にして、トランプ大統領登場後の世界の情勢をも踏まえながら、その解説と独自の論説が展開されました。

「国と国の交流は人民と人民の交流が基本」と考えてきた中国の建国以来の外交方針や少数民族に対する政治的社会的配慮について、歴史的に明らかにしながら、「脅威」論のゆがみを



かについて、核兵器の問題や戦後処理、平和外交について、日本の広島に原爆が投下された直後に、中国共産党が重慶『新華日報』に発表した「原子爆弾に思う」(1945年8月9日付)という非常に優れた時評など歴史的文書を踏まえながら、解説してくれました。さらに、鄧小平は中国をどう発展させ、どう墮落させたか、また、中国経済の現局面をどのように理解し、認識すべきかについて、独自のマルクス経済学的視点から解説がなされた。これには、独自の統計学的手法をも取り入れた経済成長論、経済発展段階論、社会主義論をも展開しており、難解ながら、含蓄の多い議論と思われまふ。

最後に、習近平の腐敗撲滅運動と「社会主義」に関連して、戸籍制度と社会保障・教育制度のあり方、所得格差・資産格差の拡大と中国における階級闘争、その一つとして相続税の実施問題が注目されることなど、多くの問題提起と示唆に富む内容でした。

倉敷支部 理事 宇野忠義

## 「今の中国をどう見るか」参加者の感想

最後の「共謀罪」法案の国会強行採決に抗議する特別決議を総会名で採択して終了しました。

午後の記念講演開始の合間を利用して、太極拳サークルの華麗な演舞がなされました。

北朝鮮や中国の「脅威」を日本政府が煽り立て、コントロールされたマスコミが一方的に報道する中で、尖閣諸島や南沙諸島などの領土問題、中国国内の少数民族問題、「一带一路」構想など、多くの国民は、「偽

あ、やばい。これ、誘われたからって、ほいほい気軽に来ているやっぴやなやつだった……! 資料を読みながら、脳みそが理解を拒否してるのを感じた。難しいかどうかよりも、「この論題に興味がない」という大問題を抱え込んでいた。そんな状態で聞いた講演だから、ほとんど記憶に残っていない。

は無理だったようです。ただ一つだけ、興味があったらしくメモが書き込んである。1945年にアメリカが日本に原爆投下したことを、中国指導部が非難したらしいが、その『新華日報』時評の日本語訳の「原子爆弾に思う」という資料に、中国と米国が同盟国だった時「抗議声明」とメモしてある。

現在には核兵器廃止条約を保留して」とメモしてある。もやっとするわ……。三国志や水滸伝を読んでかっこいいときめいたあとに、偽ドラえもんを見た時みたいだわ。

する常識が欠如してるわ。と開き直ってきた。とりあえず私にできることがあるとしたら、中国に関するよろしくない報道を鵜呑みにしないことくらいではないかと思う。

小川涼子

太極拳かジェット・リーかジャッキー・チェンを絡めてお話ししてくれたり、興味がわいたらと思うのだけど、マルクス経済学と毛沢東と周恩来で

人道外交とかそういうものらしいが、かっこいいと感じたのだ。けれどそのすぐそばには、

ぼんやりと台湾って中国じゃないかやなかったんだ」とか、学校で中国は社会主義国ですって習ったような気がする」とか思うばかりだ。私はあれだ。この分野に関

次回の新聞送付作業は7月21日(金)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

川林田和 石小曾竹竹坪

